

日刊 動労千葉

83. 4. 29

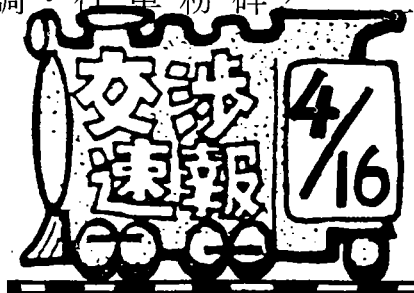
No. 1328

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

マル生的差別・分断は許さない

＝ 運転適性検査で当局を追及 ＝



国鉄当局が「四月一日実施」を狙ってかけてきていた運転適性検査導入の攻撃に対し、われわれは、原則的闘いのつみ上げをもってこれを粉碎してきた。そして、なおも「四月中の実施」を狙う当局に対し、動労千葉は四月十六日の団体交渉で厳しく追及した。

なおも「四月中の実施」を狙う当局

国鉄当局は、3・31闘争を背景とした団交の中で、年度末手当および検修職制改正問題とともに本件問題についての決着を図りたいとして焦点化してきたが、動労千葉をはじめとする闘いの中で「四月一日実施」が粉碎された。しかし、国、動労はこの団交の中で「四月末を目途に交渉を詰め」ことを労使確認し、動労「本部」革マル反動分子は、全国戦長会議の中で「四月中に落とす」と屈服を宣言している。

このような情勢の中で、動労千葉は「四月中に交渉を詰める」という確認を拒否し、三月二二日の団交における未解答部分について議論することを前提に四月十六日の団交を開催したものである。二月二日の当局提案に対し、動労千葉は「申第八号」（三月十一日）をもって解明要求を行い、三月二二日の団交で当局解答を追及した。そして、

① 当局の運適実施の意図に対する不信感、不安感。 ② 検査周期（36カ月）に対する問題点。 ③ 「他職適」となった者の扱い。 ④ 判定基準の明確化。

① 不安感解消のために、組合推薦の医師等を判定に関与させることについては、国鉄は日本でも屈指の研究機関を持つているのであり信頼してほしい。また、判定基準を明らかにすることは、検査の性格上、受検者が判定基準を知ることによって適性を引き出せなくなるので明らかにできない。

② 検査周期（36カ月）に対する不信感、不安感。 ③ 「他職適」となった者の扱い。 ④ 判定基準の明確化。

① 不安感解消のために、組合推薦の医師等を判定に関与させることについては、国鉄は日本でも屈指の研究機関を持つているのであり信頼してほしい。また、判定基準を明らかにすることは、検査の性格上、受検者が判定基準を知ることによって適性を引き出せなくなるので明らかにできない。

に結集しよう

千葉県中央メーデー

- 五月一日、十時、千葉公園
- 集合：千葉運転区、九時三〇分
- 参加支部（新小岩、津田沼、幕張、千葉転、蘇我）。

以上の他の支部は

各地区メーデーに参加。

★中江・北原選挙の勝利を、五月三里塚・国鉄決戦の勝利へ拡大しよう！

1930年代に入ると、不況の波と共に戦争体制への急速なめりこみが行われた。1931年(満州事変)を契機に、いわゆる「15年戦争」といわれる中国侵略戦争に突入。労働者・社会運動への弾圧が強化される一方で、産業報国会的「物産運動」の前身ともいえる「日本主義」労働運動も育成され、彼らは5月1日のメーデーに対抗して、1934年には、4月29日に「愛国労働祭」を祝うまでに至っていた。1936年(5.11年)にメーデーが禁止された。(復讐は、戦後1946年=メーデー)。(※)

1936年には「2.26事件」、ナチスドイツと日本との間に「日独防共協定」、1937年本格的日中戦争開始。しかし、メーデー禁止、集会禁止の弾圧に抗して、不屈に闘いを闘った労働組合もあり、厳しい闘いを続けた。

メーデーの禁止に抗議したばかりに労働組合(1936年6月号)

報告 国鉄 如月 幸三